

目 次

はしがき v

第1章 記号論から考える 1

第2章 ソシユール記号論からのアプローチ 7

1. 音素と音声 10
 - 1.1. 音素と音声 10
 - 1.2. イーミックとエティック (音韻以外の言語記号の場合) 14
 - 1.2.1. 「語」の場合 15
 - 1.2.2. 「語句」の場合 18
 - 1.2.3. 文における語順の場合 20
 - 1.2.4. 句読点と文字の種類など 20
 - 1.3. イーミックとエティック (非言語記号の場合) 23
 - 1.3.1. 衣 23
 - 1.3.2. 食 24
 - 1.3.3. 住 25
 - 1.3.4. 身振り 27
 - 1.3.5. リズム 27
2. 有標と無標 29
3. 記号表現と記号内容 38
 - 3.1. イギリスの地名 42
 - 3.2. アメリカの地名 44
 - 3.2.1. 英語に関係する州名 45

3.2.2.	アメリカ先住民の諸言語に関係する州名	46
3.2.3.	その他の言語に関係する州名	48
3.3.	英米人の名前	49
3.3.1.	職業	50
3.3.2.	出身地	50
3.3.3.	地理的特徴	51
3.3.4.	父または主人の名	51
3.3.5.	身体的特徴などのあだ名	52
3.3.6.	キリスト教の聖書の中の人物や聖人	52
3.3.7.	動植物	53
4.	連辞関係と連合関係	53
5.	ラングとパロール	63
6.	共時と通時	66
7.	構造とアナグラム	69
第3章	パース記号論からのアプローチ	75
1.	「知」「情」「意」の階層性—記号と対象との関係	79
1.1.	類像記号	79
1.1.1.	音の類似と意味の類似	83
1.1.2.	量によるメタファー	86
1.1.3.	距離によるメタファー	87
1.1.4.	発話の順序によるメタファー	89
1.1.5.	「意味の混成・複合」と「形式の混成・複合」(混成語・複合語)	90
1.1.6.	文字の歴史的な類像的变化	92
1.1.7.	その他の多様な類像的表現	92
1.2.	指標記号	97
1.3.	象徴記号	99
2.	言語習得と母語の特性—第一次性・第二次性・第三次性	101
3.	好まれる推論のタイプと日英語	107

第4章 異文化間コミュニケーションと英語	123
1. 今なぜ英語を使う必要があるのか	124
2. 共通語としてどのような英語が求められているのか	129
3. グローバル化と英語	144
3.1. 「母語」と「母国語」と「国語」	144
3.2. 多言語社会の状況	148
3.3. 媒介語としての英語	152
あとかき	155
参考文献	157
索引	165